

昭和二十七年用(昭和二十六年十二月現在)

窯業同窓會會員名簿

東京都目黒区大岡山一番地
東京工業大學窯業研究所内

窯業同窓會

(振替口座東京一九六八五五番)

電話 荏原(〇八)

〇一四二一六
二二三七
二二三八
二五五八
〇四二六(宿直)

目次

- 一、窯業同窓会沿革と発刊の言葉
- 二、東京工業大学及同大学窯業学科、窯業研究所沿革の概要
- 三、歴代校長及学長、窯業科長、窯業学科主任
- 四、卒業生名簿(卒業年度別)
- 五、卒業生名簿(五十音順)
- 六、東京工業大学窯業関係職員名簿
- 七、同 旧教官名簿
- 八、窯業同窓会役員名簿
- 九、同 規約
- 十、窯業関係事業場案内

窯業同窓会沿革と発刊の言葉

本会は蔵前時代の東京高工窯業科第一回生以来同窓親睦の会として発足し大正時代迄は「鳥又会」と称し洋行及帰朝の送迎会、又は地方から上京の同窓を迎へて懇親会を行つて居りましたが

昭和の始め頃には「愛窯会」となり昭和八年には「窯業同窓会」となりました。次で昭和十八年から「八日会」(窯化会に通ず)と改称し毎月講演と懇談の会を催して居りましたが時局柄一年余中絶、昭和二十二年一月に会名を再び「窯業同窓会」と改称し全国的に拡大発展することになりその第一着手として万難を排して同窓会員名簿を発行したのであります。然し終戦間もない頃として未帰還の方や戦災等で住所不明や移動が多く、遂に二百名近くの変更がありましたので、第二回も資金難其の他困難を排して会員名簿を発行した次第であります。其後も移動が多いので未納会員多く資金難ですが之を排して第三回の発行をした次第です。編集も沿革、年度別卒業生名簿等を附し永久保存の価値あるものとなりました。之等の苦心を御諒承下さいまして甚だ恐縮に存じます。本会の事業資金として一口百円以上の御援助を御願ひ申し上げます。

東京工業大学及窯業科の沿革概要

東京工業大学は明治十四年五月二十六日、東京浅草蔵前の地に東京職工学校として創立され、明治二十三年三月東京工業学校となり、明治三十四年五月東京高等工業学校と改称、大正十二年九月一日の関東大震災後長い蔵前の地に別れを告げて現在の目黒区大岡山に移り昭和四年四月、東京工業大学に昇格して現在に至つて居る。

現在の窯業学科は明治十七年独人ワグネル博士によつて講義された化学工芸科中の一専修科

目窯業学にその源を發している。

明治十八年四月には実習工場を新築し小型の硝子熔融窯及陶磁器焼成窯を築造し、明治二十年ワグネル博士は博士の關係した赤坂葵町の農商務省、陶器試験所を当校に移し実験上いろいろの利便を与へた。

明治二十三年三月東京工業学校と改称され、同年七月化学工芸科陶器玻璃工科の名称で呼ばれる様になつた。ワグネル氏一旦帰国し、明治二十五年一月再び来朝し、窯業の授業を担当し、窯炉を新築し最新試験器具等を独乙から購入した其後工場を新築し窯炉、機械其他の設備を逐次新設し当時我国最高の窯業教育機関としての蔵前高工窯業科の時代は続いた。

大正三年大阪高等工業学校窯業科を合併したので工場の増築、諸実験室及実験装置がととのへられた。この時代の教官は科長平野耕輔、工場長芝田理八、教授近藤清治の諸先生方及大阪高工から転任の金島茂太教授等が中心であつた。

大正十二年九月一日の大震災で窯場以外は全部焼失し一時駒場の帝大農学部に借り住居し、翌年現在の地に(窯業科は大岡山驛北側で現在民家になつて居る)バラックの校舎が出来たが暫くは設備等殆んどなく実験なども出来ず不便であつた。其後震災の復旧着々進行し漸く実験等も軌道にのる様になつて来た。そして昭和四年に大学に昇格し工学専門部を併置し窯業科を窯業学科と改称茲に我国最高学府としての窯業教育は発足した昇格と同時に近藤清治博士を主任教授とし、翌年には田端耕造博士を硝子担当教授として招き一同和氣あいゝの裡に物理学、顕微鏡及X線等の諸研究方法を導入し研究の氣勢が大いにあがつた。専門部は昭和六年閉鎖となり昭和七年大学の第一回の卒業生を世に送つた。昭和九年五

月バラツクから本建築の現校舎に移つた(工場の移転は一ヶ年近くおくれた)

満州事変、支那事変と進むにつれて漸く非常時局になり窯業学科の研究体系も次第にその趣をかえ昭和十六年太平洋戦争の突入によつて研究も次第にゆがめられ落ちついて研究は出来なくなつた。学生も勤勞奉仕等の出勤が多く完全な授業が出来なかつた。

この間昭和十五年六月二十五日近藤主任教授の急逝に遭ひ、全員失望の裡に八月平野耕輔氏講師として来学主任事務をとり、昭和十八年二月窯業研究所の開設と共にその所長事務取扱となり主任を田端教授にゆづつた。田端教授は主任事務を充分とる暇もなく病魔の犯すところとなり、翌十九年十月卅日逝去された。直ちに山内俊吉教授が主任として任命され現在に到つてゐる。

東京工業大学臨時工業技術員養成所窯業科に就て

昭和十四年窯業の国家的重大性と窯業技術員の需要増大からその短期養成を目的として当局にその理由書を附して陳情の結果国の認むる所となり昭和十五年四月一日に設置され、窯業科長は大学窯業学科主任が兼任し稲生謙次氏を専任講師として学部教官が兼任講師となり講義及実験を教授した。

右は中等学校卒業後一ヶ年の短期間で専門学校程度の教育を行つたのであつたが生徒が熱心で有能の技術員を世に送つたが終戦の翌年昭和二十一年三月を以つて閉鎖された。

東京工業大学附属工業専門部に就て

昭和十九年度本学に附属工業専門部が出来、機械、電気、電気通信、金属、化学工業、航空工学等の諸科が設置された。

あまり小さく専門別にしなないと云ふ文部省の

方針で窯業は化学工業の中を含めることとし窯業科は出来なかつた。戦時中窯業技術の必要は極めて重要度を加へ技術者の不足が痛感され学部、技術員養成所の卒業生だけでは不足であつた。

山内教授はこの要望を案じ、平野耕輔講師をはじめ科職員の意向を質しその設置の妥当性を認め、八木秀次学長に懇請し文部省にその設置方を申請した。

幸にして昭和二十年年度から定員四十名の窯業科が開設された。科長は窯業学科主任山内俊吉教授が兼任し、稲生謙次氏が専任教授となり他は窯業学科並に窯業研究所の殆んど全職員が講師として兼任し不破橋三、小柳勝蔵、吉木文平、黒田泰造、角田秀男氏等が外来講師になつた。

茲に学部、専門部、技術員養成所及窯業研究所と教育及研究所に関する態勢が一応完備した。専門部は開設当初勤勞動員等で充分授業も出来ずに終戦になつた。

終戦によつて戦時中に設置された大学附属の専門部は全国一齊に解消することになり、全国的運動の甲斐もなく廃止の運命となつた。従つて本学窯業科も昭和二十一年から生徒募集をせず在学生の卒業と同時に自然閉鎖となつた。

この様な事情から切角出来て将来を楽しんでいた基礎学科に相当力を入れた特色ある専門部も昭和二十三年三月第一回の卒業生を出しただけで廃止された。

窯業研究所に就て

窯業に関する研究が次第に重要度を加へて来たがその研究機関は不充分であることが昭和十七年頃から論議され、平野耕輔、山内俊吉氏等を中心とし先輩並に業界各位の支援の下にてその設置計画が進められ、昭和十八年二月窯業研究所の官制が公布され平野耕輔氏所長事務取扱とな

り所長付として事務関係は石井茂助総務部長、研究関係は山内俊吉教授が任命され、夫々所長代理としての仕事をすることになり、河島千尋、鈴木信一両氏が専任教授所員に、清浦雷作、田賀井秀夫両氏が専任助教教授所員となつた、学部窯業学科教授、助教教授の殆んど全部が兼任所員となり又井上春成、永井彰一郎、高松亭、伊藤亮、小川建男氏等が囑託となつた。

業界の寄附五十万円中三十万円約四百坪の研究室を二十万円でその設備をする筈であつたが空襲に備へて木造建築の築造は許されなくなり設計図を見乍ら如何ともすることが出来なかつたのは残念であつた。

昭和二十二年四月平野所長事務取扱逝去され窯業学科主任山内俊吉教授が所長を兼任今日に到つてゐる。

東京工業大学歴代校長及学長

初代	校長	正木退蔵
二代	同	手島精一
三代	同	阪田貞一
四代	同	吉武栄之進
五代	学長	中村幸之助
六代	同	八木秀次
現	同	和田小六

東京工業大学歴代窯業科長及窯業学科主任

初代	科長	高山甚太郎
二代	同	平野耕輔
三代	主任	近藤清治
四代	主任事務取扱	平野耕輔
五代	主任	田瑞耕造
現	主任	山内俊吉

東京工業大学窯業関係卒業生名簿

(卒業生年度別)

母校の歴史は前記の様に古く本年は創立七十
年に相当しますので物故された卒業生の多いこ
とも止むを得ません。私共はこれ等故人になられ
た同窓諸氏の御冥福を祈り、且つ生前窯業界につ
くされた御功績に対し厚き感謝を捧げつゝ更生
日本の進展に一層精進したいと存じます。

×は故人を示し、氏名下(速)は陶器速成科卒を
示す、本科、選科の別は附してない。研究生、聴
講生は記してない。

〔卒業生の氏名は省略〕

昭和二十五年及二十六年度学部卒業生は四十三
頁に就職先と共に記載してある。

窯業同窓会も種々の事情でこの一―二年間は総
会も開き得ず、役員改選も見送つて現在に到り、
名簿も昨年三月頃発行予定で準備はしたので
が結局今回の発行となり恐縮している次第で各
位には御不満の点多いと存じますが悪からず
御了承願います。

本会は目下在京先輩有志間で寄々協議し、会
長には有力先輩を推し役員・組織等を強化して御
期待に添いたい念願のもとに再出發計画をして
おります。依つて出来る丈早くこの方向へ進みた
い為甚だ勝手乍ら総会で行う役員の改選其他に
就いて現幹事会におまかせ願いますれば善処し
たいと存じて居ります、御承引下されば幸いです。
御手数乍ら本件に就いての御意見及本会事業の
将来等に就いて御教示願いたいと存じます。御協

力を御願ひ申し上げます。

昭和二十六年十一月

会長 若林 滋
会員 各位

卒業生名簿(五十音順)

〔氏名、卒業年度、勤務先及住所を省略〕

窯業(無機材料化学)学生

昭和二十五年三月卒業生

〔氏名、勤務先住所は省略〕

昭和二十六年三月卒業生

〔氏名、勤務先住所を省略〕

三年生

〔氏名、卒論指導教官名、住所を省略〕

二年生

〔氏名を省略〕

選科生

〔氏名を省略〕

東京工業大学窯業関係職員名簿

〔氏名、職名、住所を省略〕

窯業関係前教官

〔氏名、住所を省略〕

故人になられた前教官

〔氏名を省略〕

窯業同窓会役員

五十音順

井手善彌	桜川貞弘	田中保季	久保圭吉	佐治修三	榎本芳二	白井俊一	中根俊雄	吉田博	山田透	山内俊吉	山内純一	毛上三五郎	村上三吉	丸茂敏博	野上誠一	丹羽八助	中村博司	搦崎精一	田端尚	清水川宗一郎	白川宗一郎	笹沼忠治	日下部治	清浦雷作	河島千尋	上田鈴夫	岩切良喬	石井嘉助	岩崎嘉三	各務敏三	若林滋
池ノ上	中辻正信	石塚正信	加藤政良	水野茂樹	松尾義人	坂田正	若林明	吉田三夫	山田久夫	山田精吾	茂木今朝吉	水地満穂	福井長哲	野口定夫	中根義一	内藤秀雄	角田保生	鈴木重夫	新庄和夫	佐野連一	近藤元治	倉田正一郎	川久保善高	大河原善高	伊藤謙次	稲生誠厚	飯塚誠厚	森谷太郎			

地方幹事

相談役

大野 政吉 熊沢 治郎吉
江副 孫右衛門 浮洲 武彦
八代 保

庶務幹事

田賀井 秀夫 素木 洋一
奥田 進
會 計 境野 照雄 鈴木 弘茂
名簿編集事務 宮川 愛太郎

歴代会長及副会長

(窯業同窓会となつてから)

初代幹事長 倉田 昌倅
二代 八代 保
三代会長 飯塚 誠厚
副会長 鈴木 保雄 石井 喬
四代会長 石井 喬
副会長 村上 三五朗 若林 滋
現会長 若林 滋
副会長 各務 敏三 森谷 太郎

窯業同窓会規約(昭和二十四年四月)

- 一、本会は窯業同窓会と称す
 - 二、本会は會員相互の親睦を図り窯業界の向上發展を期するを以つて目的とする
 - 三、本会は事務所を東京都目黒区大岡山東京工業大学窯業研究所内に置く
 - 四、本会は第二条の目的を達成するために下記の事業を行ふ
- 一、窯業技術懇談会
 - 二、講演会
 - 三、見学会

四、名簿の発行

- 五、其他幹事会に於て必要と認めた事業
- 五、本会々員は東京工業大学窯業関係者を以て組織する
- 六、本会は会費を徴集せず 毎年一口以上の事業寄附を仰ぐ事とする
但し一口は金百円也とする
- 七、本会の経費は第六条の事業寄附金其他を以て支弁する 会計年度は毎年四月に始まり翌年三月に終る
- 八、本会は毎年四月に総会を開き左の事を行ふ

一、会務の報告

二、役員の変更

三、規約の改正

四、其の 他

九、本会は相談役を置くことが出来る

相談役は幹事会の推薦による

一〇、本会は左の役員を置き任期は壹ケ年とする但し再選は差支えない

一、会長

二、副会長

三、幹事

四、会計幹事

五、庶務幹事

一一、幹事は総会で選出する、会長、副会長及余計、庶務幹事は幹事会の互選とする。

窯業関係事業場案内

陶磁器の部 硝子の部 セメントの部 耐火物の部 珐瑯・七宝の部 石灰・石膏・プラスチック・砥石・カーボンの部 窯業原料の部 窯業顔料関係の部 窯業機械の部 築爐の部 理化学試験機・電気爐・高温計等の部 官廳・学会・協会・

其他の部

「企業団体名、住所、電話等は省略」

◎編輯後記

同じ学窓で然も窯業と云う専門の学業を終へられて夫々業界、学界等に御活躍の先輩であり、後輩である皆様が常に連絡して教へ、教へられることは更生日本窯業界(窯業製品及原料を使う各種工業を含めて)をよりよくする為に極めて大きな力となります。この名簿がその仲人をしてくれることを信じ且つ大いに期待して居ります。

今回は母校及窯業関係の沿革、年度別卒生名簿、其他を更に加へて編集しましたので、この一冊によつて母校及先輩後輩更に窯業界に対する関心も更に深くなられることゝ存じます。

名簿中誤記や不明會員の住所、事業場等御存じの方、又は住所、勤務先に移動がありました節は御忘れなく御連絡を願います。

尚甚だ恐縮ですが本会事業資金として左記により御援助を御願ひします。前回未納の方は含めて御願ひ申し上げます。

記

一口 金壹百円

(事業資金として一口以上のご援助を願ひます)

本名簿は昨年春に御手許に届く様原稿を準備し印刷の手配をしたのですが、印刷所に於ける種々の事情により遅れたことを御わび致します。(AM生)

東京工業大學窯業研究所内 窯業同窓會
會員名簿(昭和 27 年用)

昭和二十六年十一月十日印刷
昭和二十六年十一月十五日發行 非賣品

編集兼発行人 宮 川 愛 太 郎
東京都目黒区大岡山一番地
東京工業大学窯業研究所内
東京都目黒区大岡山一番地
東京工業大学窯業研究所内
発行所 窯 業 同 窓 会
振替東京一九六八五五番
印刷人 市 川 重 藏
東京都 中央区日本橋椿町一三ノ二
印刷所 東海紙製品株式会社